

第5学年 算数科学習指導案

- 1 単元名 合同な図形
- 2 本時の目標 二角夾辺、二辺夾角の考え方をを用いたプログラムをつくり、合同な三角形を作図することができる。
- 3 本時の展開 (6/11)

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・ 教具等
見通す	1 見通し	一斉	○見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返り、3つの合同な図形のかき方を確認させる。 ・図形を示し、どのようにプログラムすれば合同な図形がかけるか課題意識を持たせる。(二角夾辺) 	図
	2 問題把握	一斉	○課題をつかむ。		
	3 めあての確認	一斉	○本時のめあてを知る。		
スクラッチを使って合同な図形をかこう。					
つなげる	4 自力思考	個別	○二角夾辺における作図の手順を考える。	・紙の上にかく時の手順を想起させ、自分が意図する動きに合う一つ一つのブロックを探させる。	PC
	5 集団解決	一斉	○作図に必要な値を調べたり、入力したりする。	・あらかじめ分かっている値と、自分で調べなければならぬ値はどこなのかを明確にさせる。	
ひろげる	6 練習問題	一斉	○プログラムを実行し、合同になっているか確認する。	・二角夾辺の問題と比べて、分かっている値と調べなければならぬ値の違いを考えさせる。	PC
		個別ペアグループ	○二辺夾角における作図の手順を考える。 ○必要な値を考え、調べる。 ○プログラムを実行し、合同になっているか確認する。		
	7 本時のまとめ	一斉	○本時の学習のまとめをする。	・プログラムを使うと、「早く正確にかける」、「合同になっているかを確認められる」ことについて児童の言葉を使ってまとめる。	
	8 学習の振り返り	個別	○振り返りを書く。	・本時の学習を振り返り、気付いたことやこれから生かせそうなことなどを書かせる。	振り返りシート

4 本時の評価 (評価観点) < 評価方法 >

二角夾辺、二辺夾角の考え方をを用いたプログラムをつくり、合同な三角形を作図することができる。

(数量や図形についての技能) < 発言・行動観察 >